

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	志學館大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	シガクカンダイガク
	大学等名2(連携大学等)	
	科目名	キャリア形成科目「インターンシップ」
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	志賀玲子(進路支援センター長/法学部准教授)、野上真(人間関係学部准教授)
	受講者数(H28年度実績)※インターンシップ参加者数	42
	受入企業等数	26
	受入企業等名	http://www.shigakukan.ac.jp/career/internship/
	インターンシップの分類	5.低学年(大学1年次～2年次程度)からのインターンシップ,7.中小企業でのインターンシップ,8.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事,2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.以外での就業体験の内容(記述欄)	
	1-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	企業や官公庁で一週間程度の職場体験実習を行う。受入先は、キャンパスウェブの活用分と、本学独自の開拓分、学生の希望による分がある。受入先によっては、業務への従事の他に、ワークショップやPBL、課題解決ワークを取り入れるところもある。
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している,5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している,7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している,8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.以外で実施しているインターンシップの内容(記述欄)	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次(記述欄)	2年次～3年次
	2-4.当該インターンシップで付与される単位数(記述欄)	2単位
	2-5.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	共通教育科目のキャリア形成科目群の1つに位置づけている。同科目群は入門・基礎的な内容や講義から演習、実習までステップアップできるように配置されており、できるだけ段階的に履修するようにオリエンテーションやガイダンスで説明している。
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法を身に付ける授業等を行っている,2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている,3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている,4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.以外で実施している事前学習の内容(記述欄)	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている,2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている,3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている
	3-2-2.以外で実施している事後学習の内容(記述欄)	
	3-2-3.該当するモニタリング	1.インターンシップ中に、教職員が定期的に企業等に赴き、学生と面談を実施している,2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
	3-2-3.以外で実施しているモニタリングの内容(記述欄)	
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細(記述欄)	実習に臨む上での目標意識、ビジネスマナーを向上させるための演習に取り組んだ。また、事前学習の一環で、グループに分かれ、JA鹿児島県経済連・鹿児島女子短期大学等との連携による「鹿児島産品レシピ開発プロジェクト」・「国際交流プロジェクト」、大和リース・鹿児島市交通局・NPO等との連携による「食と観光フェスタ」プロジェクトのPBLを実施した。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細(記述欄)	事後学習として、日報とレポート、報告会により振り返りを実施している。また、成果のフィードバックについては、鹿児島県インターンシップ担当者連絡会に参加し、受け入れ企業団体等を通じて行っている。その他、一部については担当教員が受入先や担当社員に行っている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細(記述欄)	インターンシップ中は、教職員が受入先を訪問し学生と接触することはできているが、学生が大学等に来ることはできないため、メールや電話などで相談を受けている。
要素	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている,3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準(例:ループリック)を整備し、学生及び教員で共有している

④	4-2.以外で実施している教育的効果を測定する仕組み(記述欄)	
	4-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	受入先へのアンケートや学生のレポート作成を実施している。報告会は全員がプレゼンテーションを行うことで共有し、受入先の評価も踏まえて、評価基準のどの要素がどのように変容したかも入れるように指示している。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している。2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合(記述欄)	実施期間5日間
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	5日間(うちインターンシップ実施期間3日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合(記述欄)	
	5-2.以外の実施期間の内容(記述欄)	
	5-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	原則として、連続して5日間以上実施期間を確保するようにしているが、受入先によっては、半日×10日間実施の場合や、3日間実施の場合がある。3日間実施の受入先は少ないが、前後に事前・事後学習を追加することになっている。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してインターンシッププログラムを設計している。3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている。4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している。5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している。6.企業と協働して、PDCAを実施している
	6-2.以外で実施している大学等と企業の協働取組の内容(記述欄)	
	6-3.上記回答内容に関する詳細(記述欄)	鹿児島県インターンシップ担当者連絡会を通じて実施している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	http://www.shigakukan.ac.jp/career/internship/
問い合わせ先	大学等名	志學館大学
	担当部署名	進路支援課
	担当者役職名	課長
	担当者氏名	岡山真由美
	電話番号	099-812-8507
	メールアドレス	career@shigakukan.ac.jp